道路付け替え：敷地（バスターミナル）の一体化

松坂は、普賢岳噴火以来、島原の復興を考える『島原中心市街地街づくり推進協議会』のメンバーでもあります。そこでも島原の未来を案じるメンバーとともにイオン存続の運動を展開しました。

2017年秋、島原に展開されるであろう規模の乙金イオンモール（大野城市）を視察しました。

法改正後の郊外展開事例なので、9000㎡と6000㎡の二つの売り場に分断されていましたがイメージはつかめました。

求心力のあるショッピングセンターになるには１万㎡を超える売り場はまず確保したい（現在島原半島には１万㎡を超える大型店はない）。幸いイオン島原店は都市計画用途で「商業地」となっているので、１万㎡規制はありません。しかし、敷地の真ん中の縦道で分断されています。この縦道を付け替え迂回させることで敷地を一体的に活用できます。

2018年秋に取りまとめられた『島原中心市街地街づくり推進協議会のまちづくり提言』では、

①イオンとバスターミナルを隔てる市道を付け替えての一体的建替え存続

②島原城堀側の遊歩道整備

③歩行周遊型観光の核としての万町堀部邸の活用

などを盛り込みました。

ご承知の通り、イオン島原店の敷地は島原鉄道（株）の所有であり、地域公共交通の要（かなめ）であるバスターミナルがあり、島原鉄道本社駅も隣接しています。イオン問題は島鉄存続にも関わる重大事です。

昨年（2018）末、新生島鉄・イオン九州は揃って市長訪問。道路付け替えを条件に**「建て替え存続」**の意思を示し、古川市長も出来る限りの対応をしたいと応じたのでした。（12月議会市長答弁）

イオンは、さらにモール内に公共的な施設の併設協力も提案しているとのこと。思い切って『文化会館』を誘致するのも一つの可能性があるのではないでしょうか。